

過去のスポーツ指導が与える学生アスリートの社会人基礎力への影響

1230535 三浦千怜

指導教員 前田 和範

研究背景

経済産業省は、2006年に「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「社会人基礎力」を提唱した。先行研究では、社会人基礎力が体育会系クラブの経験や、スポーツを通して育成されること、指導者の指導方針によっても学生アスリートの能力が左右されることが明らかとなっている。本研究では、このような指導方法の違いによる学生アスリートの社会人基礎力の違いに注目する。

研究目的

本研究では、学生アスリートを対象に社会人基礎力を測定するだけでなく、学生アスリートが受けてきた過去のスポーツ指導のタイプによる社会人基礎力への影響を明らかにし、学生アスリートが社会で活躍するために必要なことを検討することである。

調査・分析方法

学生アスリート（大学1年生～4年生）351名を対象として、アンケート調査を行った。主な調査項目は、個人的属性、中学から現在までの競技、部員数、役職・中学から現在までの顧問の指導スタイル、社会人基礎力（7段階で測定）であり、それぞれの社会人基礎力の数値についての平均値比較を行った。

分析結果

有意差が認められた社会人基礎力の項目について、全てボトムアップ指導を受けてきた学生の方が高いことが明らかになった。また、有意差が認められなかった項目についても、高校時代の指導方法の差による比較の「状況把握力」と「規律性」の二つの項目では、トップダウン指導を受けてきた学生の方が高いが、それ以外の全項目でボトムアップ指導を受けてきた学生の方が高い結果となった。

考察・結論

トップダウン型のスポーツ指導よりもボトムアップ型のスポーツ指導の方が、学生アスリートの社会人基礎力を養う指導方法に適していると言える。特に有意差が大きく認められた項目は、「働きかけ力」「課題発見力」「ストレスコントロール力」の3つであった。すなわち、これらは特にボトムアップ指導を受けてきた学生が高く養われてきた能力であると考えられる。